

マルクス主義者の残り と 資本主義 についての 混乱

自由主義の知識人たちのほとんどは、朽ち果てたマルクス主義者です。彼らはマルクスが好きではありませんが、マルクスが唱えた階級区分については受け入れるのです。マルクスは階級間の争いを提唱し、世界を圧制者と圧制される者、すなわちブルジョア（中産階級）とプロレタリアート（無産階級・賃金労働者）に分けました。彼は社会を切り分け、その底辺がプロレタリアン、それより上にいる者は誰でもブルジョアだと説きました。ブルジョアは資本家、またはその支援者のことでした。

これは独断的な分け方であり、真実ではありません。工場で働く人を賞賛し、疑いがありそうな他の誰でも、裏切り者の敵だと見なしました。（その政治的効果は殺人的です。）

もしマルクスがより高い線引きをしていたならば、社会的階級、熟練した職人や思想家も含め、彼らはもっとマルクスの理論に同情していたでしょう。そしてそれは危険なほど間違ふことにはならなかったでしょうに。

マルクスが提唱する政治は全て階級の対立にあり、経済的技術（私たちが知っている経済的技術とは、発明と発見に依存しています、従って、起こることが予め定められてはいません。しかしマルクスは、プロレタリアートの勝利に終わるはずであるという自身の理論が、進化的科学になると信じていたので、このことを述べませんでした。）の手法を変えることによりもたらされます。

振り返ってみると、ブルジョア階級はフランス革命で 1789 年に少数特権階級の貴族を征服しました。それから 1848 年にブルジョア階級に反対するプロレタリアートの新しい革命がフランスで始まりました。これらの革命で社会主義者たちは虐殺されました。ブルジョア階級が少数特権階級の貴族を倒し、それで、最終的に、プロレタリアートはブルジョア階級を倒すことができるかと確信したのだと、マルクスは主張しました。

共産主義のマニフェストが 1848 年に書かれました。それはこう始まります。「今までの既存の社会の歴史は階級闘争の歴史である。」

私は、人々がこの声明文をよく考えもせず受け入れる理由を、今では理解することができます。私たちは何世紀にも渡る中流階級の上昇、それから 19 世紀の労働組合、労働者運動（ほとんどの場合利己的で、たまに慈悲深い中流階級の人たちによって始まりました）、そして大戦後のイングランドにおける福祉国家の設立を知っています。しかし歴史は科学ではありません。マルクスは彼の理論に基づく事実を選んでいたので。変化は階級闘争間だけではなく、異なったグループ間でも起きました。例えば、産業主義以前、商人の組合と職人の組合、すなわち商品を作る側と作る側との間で闘争がありました。闘争のほとんどは国家間の戦争であり、階級間の戦争ではありません。

ん。（労働者は自分の上司よりも外国人を嫌う傾向にあるというのは、本当のことでした。）マルクスは、政治が経済によって動機付けられるということを理解する点においては素晴らしかったのです。

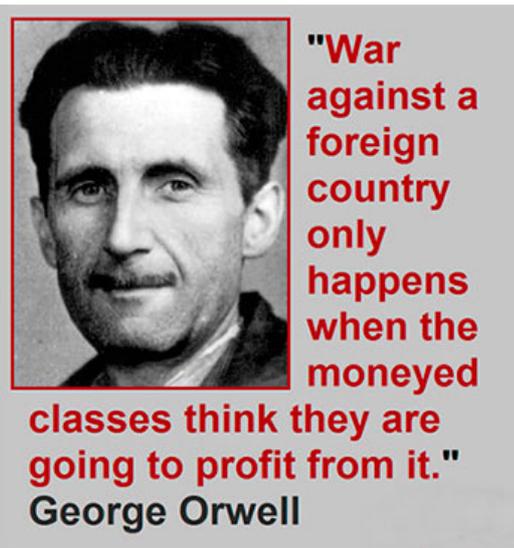
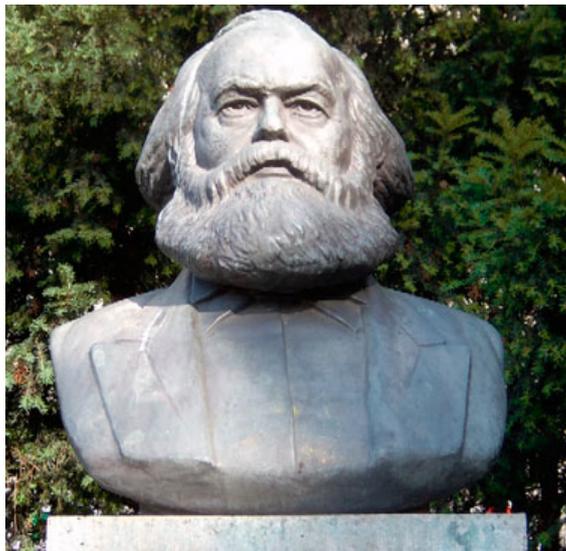
しかし政治の土台は、経済だけに偏ったものではなく、むしろ公益を考慮するところにあるのです。（そしてマルクスの階級戦争の提唱は自由主義者たちを脅かしました。）例えば、国家主義は、公益として愛国主義者達によって初めに助長されました。その新しいアイデアがフランス革命戦争によって始められ、フランスは「自由、平等、友愛」、一言で民主制、のために戦う国となりました。国家主義はヨーロッパ中に広がりました。

国家主義はいまだ感情をベースに成り立っています。おそらくほとんどは皮肉にも最も搾取される貧しい人々によって感じられるものです。メディアは、独占資本主義というそのお仲間クラブのサービスにおいて、戦争を恒久化するために未だに国を守ろうという報道をするのです。

ジョージ・オーウェルと 1984 年

ここにオーウェルが、マルクスの教義を再び繰り返しています。しかしながら彼の小説「1984 年」において、世界の支配者達の目的は、権力者のための権力です。支配者達はこれを監視し、（ビッグ・ブラザーが皆さんを守ってくれるでしょう）そして 凶悪な敵 への憎悪（作られたプロパガンダ）をすることでさらなる権力を得ようとします。もちろん権力のある人たちはお金がほしいのです。しかし「1984 年」においては、究極の権力が主な目的です。今日、数人の権力者による全てを所有したいという欲望が、間もなく地球を滅茶苦茶に破壊するだろうということは明らかです。

オーウェルの 動物農場 は共産主義について書かれています。



「他国に対する戦争は、お金を持った階級がその戦争から利益を得てやろうと思う時だけ起きるものだ。」ジョージ・オーウェル

マルクスがプロレタリアートの権利を支援するため、疑似科学に見合うよう事実を選んだだけだという例を他に挙げますと、労働は価値を基準に存在

するという考えを選んだことです。いかなる商品の価値も、彼が言うには、それに従事する労働（時間）によって計られるのだそうです。（これは一つの重要な要因であるにすぎません。私は労働時間だけが商品価値の要因となるものを一つも挙げることはできません。）技術や美は含まれていないのです。実際に、美はどの公式にも当てはまりませんが、美はそれ自身に価値があります。美が真実だと理解する時、人は極限の選択の基準に直面します。そして自身の視覚、眼識により自分自身を外面化する力を持つことになるのです。この点において、人に選択の自由がなければ、人は自由な意志を取り除き、感情に蓋をすることになります。（ロシアや中国の人民公社の湾曲した感情！）

技術のある人達を無視することによって、マルクスはプロレタリアートを、階級を圧迫したものとして孤立させます。なぜなのか、彼はこう言います。商品を作った人に全価値が支払われてはいけないのかと。家主や資本主義者達は、どんな権利を持って商品の一部を盗んでいくのでしょうか。その価値には一切何も付加しないというのに。労働者は、生産の資力を所有すべきです。

私はマルクスを全部読んだわけではありませんし、そうするつもりもありません。彼は自身の憎しみのせいで見えなくなり過ぎています。しかし私は、彼の経済には剰余価値のアイデアも含まれていたと十分理解しています。資本主義の元で、賃金を稼ぐ人は、支払われる以上の物を生産しています。そして共産主義の元での（機械に払う以外）剰余価値は、サービス（例えば医者や教師）や公共の設備のために必要とされるでしょう。土地は共有のものとして扱われます。

今日、資本主義に対して大きな混乱があります。知識人達がマルクスの階級区分を受け入れ、ビジネスから利益を生む人全員をブルジョア（この言葉は流行ではありません）、そして資本家、さらに搾取者と見なしていることです。私がパンクだった時代、他のパンクの人達の中に、私がお店を持っているからという理由で、私のことを資本家だと決めつける人もいました。今では、どうして私がチャールズ皇太子を好きになれるのか、そして退廃した政府にまだ反対しているのかと、人は不思議に思っています。あるジャーナリストは、私の頭は混乱しているのだと言います。チャールズ皇太子はリッチで特権のある方です、それゆえに彼は圧制者であると、マルクス主義者の残り達は言うのです。

私は、チャールズ皇太子は他のどの政治家よりも世界に良いことをしたと言えます。そして君主制はまさにこの時代において、安定している体制です。政治的に正しい人達、すなわちマルクス主義者の残り達に私が同意しない点が本当にたくさんあります。私自身が議論的になるのを恥ずかしくは思いませんので。彼らは物事を考え抜いてはいないのです。

独占資本主義に反対したナオミ・クラインの最近の本、これが全てを変えるを読んで、批評家は、彼女は利益を得ることは悪いことではないと言って

いる、彼女は矛盾していると批判します。しかし商業をするには資本が必要です。資本主義自体に、何も悪いところはありません。敵は、独占資本主義です。

マルクスがマニフェストを書いた 19 世紀半ばまで、自由貿易は大流行でした。これは農家や職人達を守るため、価格を固定することで終止符を打ちました。（保護は独占じゃないですか。）当然のことながら、競争は商品価格を減らすことになりました。それって貧しい人達にとっては良くないことだったのではないですか。マルクスはこれを全て見抜き、競争が独占へと繋がっていくと気付いていました。彼は自由貿易を嫌っていました。（資本主義がコントロールされない限り、大きな魚が小さな魚を食べることになります。）

私たちが、19 世紀前半の英国の冷酷で残忍だった資本主義のことを思う時に、マルクスの訴えが主に階級反対だったという事実は何の驚きもありません。マルクスはそのことや、冷血な雇用主のことを嫌っていました。



19 世紀初頭、イギリスの炭鉱内。カートに乗った蠟燭の灯り以外は、真っ暗だったので、掘る場面を見ることはできなかったでしょう。この子達は 1 日 15 時間も暗闇の中で働いていました。この 5 歳の子が通気口をコントロールするため、ドアを開け閉めしなければなりませんでした。年上の子達はカートを押しています。女の子もこれをしたのです。

私たちが忘れてはならないのは、歴史の中では、いつも一個人がパフォーマンスをしてきたということです。マルクスは、彼が予言した階級闘争を、彼の教えによって作り出しました。

哲学者で社会主義者でもあったバートランド・ラッセルは、*自由と組織 1814-1914* でこう言っています。

Marx's doctrines, like those of other men, are partly true and partly false. There is much that can be controverted, but there are four points in his theory that are of such importance as to prove him a man of supreme intelligence.

The first is the concentration of capital, passing gradually from free competition to monopoly.

The second is economic motivation in politics, which now is taken almost for granted, but was, when he propounded it, a daring innovation.

The third is the necessity for the conquest of power by those who are not possessed of capital.

The fourth is the necessity of acquisition by the State of all the means of production, with the consequence that Socialism must, from its inception, embrace a whole nation, if not the whole world. Marx's predecessors aimed at small communities in which, as they supposed, Socialism could be tried experimentally on a small scale, but he perceived the futility of all such attempts.

マルクスの教義は、他の人たち同様、部分的に正しく、また部分的に間違っている。議論されるべきことはたくさんあるが、マルクスの理論には4つほど、彼がすぐれて聡明な男だったことを証明する重要なポイントがある。

第一に、資本の集中、自由競争から独占企業へと徐々に渡っていくこと。

第二に、今は当然のこととみなされる、政治の動機付けが、経済であるということが、マルクスが問題を提議した当時は大胆な革新であったこと。

第三に、資本を所有しない人達による力の征服の必要性。

第四に、全世界とまではいかないが、社会主義が全国家を初めから包含しなければならぬという結果を伴って、全ての生産の手段が国家によって獲得されることの必要性。マルクスの前任者達は、社会主義は実験的に小規模で試されるべきだと想定したように、小さな地域社会に照準を合わせた。しかしマルクスは、そのような試みの無益さを全て理解していた。

今の時点で、4番目のポイントがどのように機能するのか私は理解していません。なぜなら社会主義と、実際には抑圧と死の悪夢であった共産主義の違いを、私ははっきりと理解していないからです。しかしもし私たちが国の失われた富の一部を取り戻すことができるならば、それがスタートとなり、私たちや地球の助けとなるでしょう。

英国の経済は19世紀から、バーゲンセールが始まったサッチャーの時代まで、英国産業のアウトソーシング（外部委託）と共に雑多なものでした。

英国が、自国の資産とサービスを持つ国家に戻るだけのことが、売上高が続くにつれてより難しくなるのです。儲けの多いユーロスターは売られてし

まい、公団住宅は取り壊され、相場師のための豪華なアパートが建てられています。

目下の情勢でマルクスの階級区分は、政府、独占企業、銀行（天下りクラブ）を切り取り、残りにあたる私たちから引き離すべきなのです。

独占は敵です。

"WHAT'S GOOD FOR THE PLANET IS GOOD FOR THE ECONOMY"
"WHAT'S BAD FOR THE PLANET IS BAD FOR THE ECONOMY"

What's good for People is good for the planet.

地球に良いものは経済にもよく、地球に悪いものは経済にも悪い。

人に良いものは地球にも良い。

私は、もし私たちがこの道標について行くことができるならば、それが真の人間の価値ある世界への道を示してくれるだろうと思います。これはピラミッド形の階級組織の価値を意味しています。（独占資本主義はカオスを作り上げます。）文明社会の未来は人間の価値に基づく階級組織によるものです。